

高校・一般の部 最優秀賞

本人の希望により氏名非公表

80年前の1945年8月9日長崎に原爆が落とされ、父は15才で被爆しました。私は被爆二世です。

しかし、父は永い間、原爆被爆者健康手帳の交付申請をしませんでした。その理由は、父亡き今となってはもうわかりませんが、被爆者として、世間から「差別」される事を恐れていたのではないかとおもいます。

父は被爆後、続々と襲ってくる難病を抱えながらも87歳まで懸命に生き抜きました。

被爆の恐しさは、その瞬間だけではありません。後々永い年月がたっても人々を苦しめ続けます。その後続く世代にも苦しみが続いています。

私は戦後生まれですが、生きていく中で、さまざまな困難・苦勞に出くわしても、被爆の惨状・苦しさに比べたら「たいした事ないな」とおもい、何とか乗り越えてこられました。

ずいぶん前ですが、朝日新聞天声人語に記載されていた菅原文太さんの言葉が今でも胸に焼き付いています。政治に対し

「人々を飢え死にさせない」

「ぜったいに戦争をやってはいけない」

切に願います。